

ZIMCODE TRACTION SYSTEM

ジムコード牽引システム



Antioxidant protection for long-lasting strength and performance.

ZIMMER BIOMET

はじめに

本資料では、「ジムコード牽引システム」についてできるだけ簡潔に説明しております。
本システムは、セミオーダーのように必要に応じて組み合わせてお使いいただけますので、
本資料をぜひご活用ください。

目　　次

牽引について ____ 2
- ・牽引とは ____ 2
- ・解剖学的考察 ____ 2
- ・牽引の種類 ____ 2
- ・牽引のメカニズム ____ 3

パーツ各種 ____ 4

ジムコード牽引応用例 ____ 5
- ・頸部牽引 ____ 5
- ・オーバーヘッド上腕牽引（90-90） ____ 6
- ・骨盤牽引（骨盤牽引ベルト） ____ 7
- ・バックス牽引（両側／片側） ____ 8
- ・ベーラーブラウン牽引 ____ 9
- ・ラッセル牽引 ____ 10

牽引包帯の応用と留意点 ____ 11

牽引とは

身体の一部に〝引く力〟を加えることで次の治療目的のために行ないます。

1)筋肉の痙攣(スパスム)の防止、軽減

2)関節、あるいは身体の一部分の固定

3)骨折、脱臼の整復

4)関節疾患の治療

牽引の目的を確実に果たすために、牽引の設定には次のことに留意してください。

○末梢から中枢への骨折片のアライメントが得られているか

○常時、一定の力の牽引が行なえるか

○牽引中、十分な運動が可能か

○適切な患者介助ができる状態か

すべての牽引組立において、カウンタートラクション(逆牽引)を考慮しなければなりません。カウンタートラクションは牽引装置により生じた牽引力の方向に体が引き寄せられるのを防ぐもので、患者の体重を利用して行われます。不十分な場合はベッドの足部を持ち上げたり、毛布をまるめたものや、砂のうを利用します。

解剖学的考察

人体を支えている骨格は、200個以上の骨によって構成されていて、靱帯や筋肉により定位置に保持されています。骨格筋は骨の〝動源〟として働いていて、通常骨の一端から発し他の骨端に付着しています。これらの骨格筋は両端に腱を持っていて、脳が骨格筋に収縮するように指示をすると、腱は中央部に引き寄せられます。

これにより骨幹に力が生じ、骨の運動を可能にします。骨格筋には緊張する力があり、この力が絶えず腱に一定の引く力を働かせています。

図1のように骨折した場合は骨格筋が収縮して骨折部位を正常な軸線から引き離しています。

牽引装着後は、ウエイトや滑車により生み出された牽引力が、骨格筋が骨折した時に収縮する力よりまさり、これが骨折部位を整復するのです。(図2)



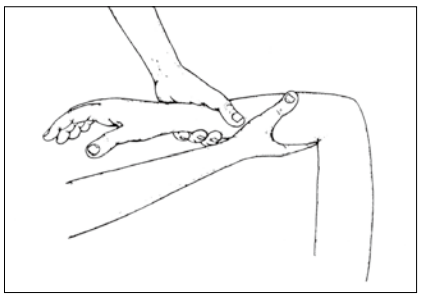
図1



図2

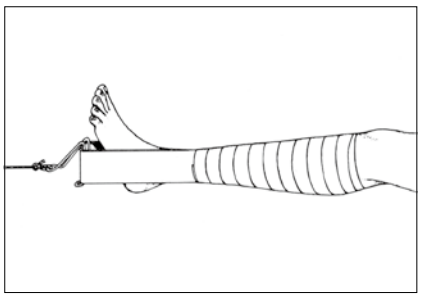
牽引の種類

牽引は　1)徒手牽引　2)介達(皮膚)牽引　3)直達牽引の三種類に分類され、状況に応じて使い分けます。



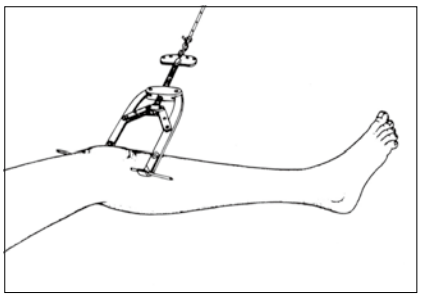
徒手牽引
(Manual Traction)

この牽引では整復を手によって行います。一般的にこの種の牽引は副木やギプスで固定する前の安定性骨折、脱臼に用います。また皮膚牽引、直達牽引前や、手術前にも行います。



介達(皮膚)牽引
(Skin Traction)

弾力包帯やスキントラック帯を使用し直接皮膚へ牽引力をかける方法で、下腿用スプリントや骨盤牽引用ベルトもこの分類に入ります。この牽引方法は小児の骨折、また成人の短期間で弱い牽引を必要とする骨折や脱臼に用いられます。皮膚炎症を防ぐために牽引力は(2～3kg)程度とし、3～4週間以上にわたる継続的な牽引は避けてください。

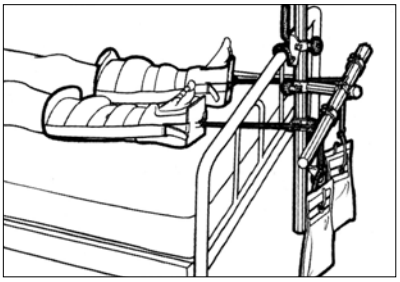


直達牽引
(Skeletal Traction)

この牽引ではピン、ワイヤー、スクリュー、または特殊牽引器を使用して骨や頭蓋骨に直接牽引力を加えます。この牽引方法では9～14kg程度の力を3～4ヶ月にわたりかけることができ、さらに、一定方向だけでなく回旋による調節が可能です。直達牽引は特に、不安定な骨折や粉砕骨折等で、筋力にまさる牽引力が整復のために必要な場合に適しています。

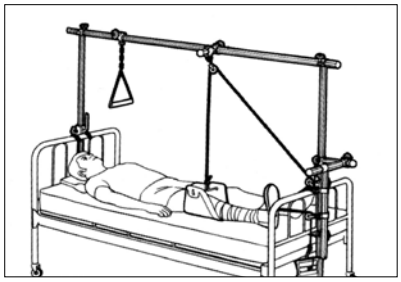
牽引のメカニズム

牽引力のかかる方向性から以下の分類が可能です。



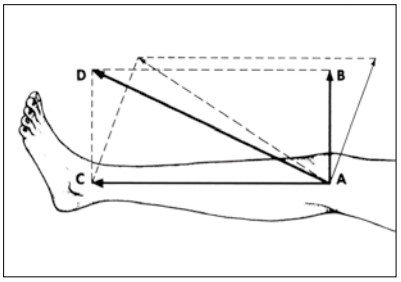
ストレートライン牽引
（Straight-Line Traction）

この牽引はバックス牽引に代表されるもので、一方向のみに牽引力がかかります。シーツの摩擦や滑車の回転で生じる力のロスは考慮に入れず、500g程度のウエイトにより同等の500g程度の力が加わると見なします。



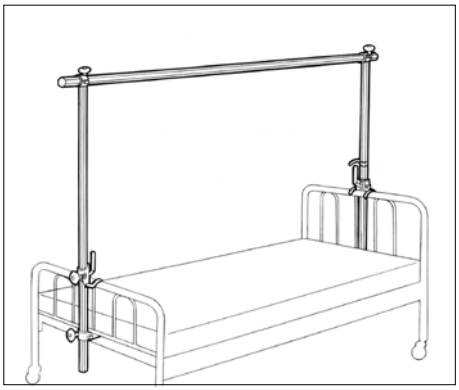
ブロック・タックル牽引
（Brock-Tackle Traction）

患者の二ヶ所以上の部位に装着し、牽引フレームの一ヶ所またはそれ以上の位置に滑車でつなぎます。ウエイトの重さは装着されたアタッチメントの数により増加します。図2の場合、2kg程度のウエイトにより結果として4.5kg程度の牽引合力を生み出します。



ベクトル牽引（Vector Traction）

この牽引の典型はラッセル牽引で図3のように垂直方向のA-Bの力と水平方向のA-Cの力が、ベクトルの原理によって大腿骨の軸線に沿ったA-Dの牽引合力をつくり出します。



ジムコード・基本フレーム（金属製ベッドパネル用）

カタログNo.	品名	入数
11-0640-013-00	上部パネルクランプ	2
11-0640-014-00	下部パネルクランプ	2
11-0640-002-00	168cmスイベルクランプバー	2
11-0640-001-00	244cmプレインバー	1
11-0640-008-00	プーリー	5
11-0967-001-00	牽引用ロープ（30m）太さ5mm	1

パーツ各種



プレイン バー

組み合せ内容

カタログNo.	長 さ
11-0908-003-00	69cm
11-1042-002-00	91cm
11-2700-040-00	102cm
11-1241-044-00	112cm
11-0640-023-00	216cm
11-0640-001-00	244cm



11-0619-002-00
ダブルプーリーバー

長さ：46cm



11-0640-011-00
センタークランプバー

長さ：91cm



スイベルクランプバー

カタログNo.	長 さ
11-1042-003-00	122cm
11-0640-002-00	168cm



シングルクランプバー

組み合せ内容

カタログNo.	長 さ
11-1083-003-00	13cm
11-0640-004-00	23cm
11-0640-005-00	46cm
11-0640-006-00	69cm
11-0640-007-00	91cm



11-0619-001-00
プーリー付スイベルクランプバー

長さ：23cm



ダブルクランプバー

カタログNo.	長 さ
11-1038-002-00	69cm
11-1038-003-00	79cm



11-1042-004-00
クロスクランプ

長さ：13cm　　幅：5cm



11-0640-013-00
上部パネルクランプ



11-0640-014-00
下部パネルクランプ



11-0640-008-00
プーリー



11-1600-051-00
牽引用フック



牽引用ロープ

カタログNo.	太 さ	長 さ	材 質
11-0967-001-00	5mm	30m	ポリエステル



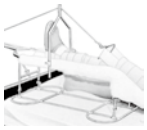
ウェイト

カタログNo.	重 量
11-1602-000-05	0.5kg
11-1602-000-10	1.0kg
11-1602-000-20	2.0kg
11-1602-000-50	5.0kg

スプレッダーバー

・材質：スチール

カタログNo.	
11-0849-001-00	M （15, 20, 23cm）
11-0849-004-00	L （30, 56cm）



11-0112-002-00
ベーラーブラウン架台

カタログNo.	
11-0112-002-00	ベーラーブラウン 架台本体
11-0112-002-01	ベーラーブラウンスプリントS台形型1枚入り
11-0112-002-02	ベーラーブラウン 太もも用4枚入り



ディスポーザブル
頸椎用牽引具（ヘッドホルター）

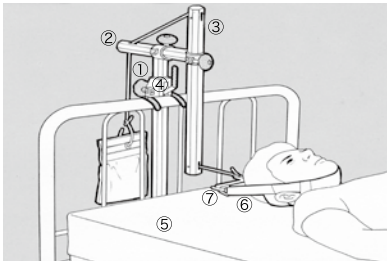
・特長：過伸展又は屈曲位に牽引、ディスポーザブル
・適用：頸椎牽引用バット
・材質：ポリウレタンフォーム、弾力フランネル、
　　ポリプロピレン仕上

カタログNo.	特 徴	サイズ	入り数
11-0912-000-00	ディスポ	ユニバーサル	12個

応用例 1

頸部牽引

Cervical Traction



■適応

頸椎筋炎、頸椎脱臼、退行性脊椎変性、むち打ち症、軽度の骨折

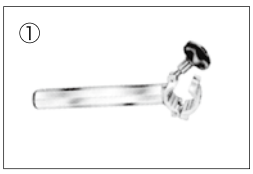
■留意点

・カウンタートラクションが必要な場合は、ベッドの頭部を持ち上げるか、背床を上げるかしてください。
・頸椎用牽引具のストラップが患者の頭に触れたり耳をはさんだりしないよう、スプレッダーバーの幅を考慮してください。
・時々牽引をはずし圧迫痛の生じやすい後頭部をチェックしてください。

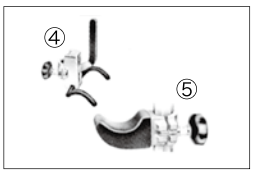
■組立て用組合せ部品／アクセサリー

	カタログ番号	品名・規格	数量
①	11-0640-007-00	91㎝シングルクランプバー	1
②	11-0619-001-00	23㎝プーリー付スイベルクランプバー	1
③	11-0619-002-00	46㎝ダブルプーリーバー	1
④	11-0640-013-00	上部パネル・クランプ	1
⑤	11-0640-014-00	下部パネル・クランプ	1

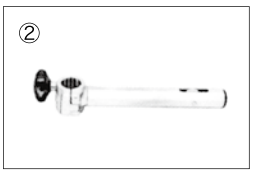
	カタログ番号	品名・規格	数量
⑥	11-0912-000-00	ディスポーサブル頸椎牽引具	1
⑦	11-0849-001-00	スプレッダーバー	1
	11-1600-051-00	牽引用フック	1
	11-0967-001-00	牽引用ロープ	1
	11-1602-000-05～50	ウェイト（0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい）	適宜



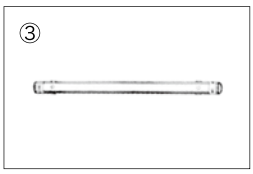
11-0640-007-00
91cmシングル
クランプバー



11-0640-013/014-00
上部パネルクランプ（013）
下部パネルクランプ（014）

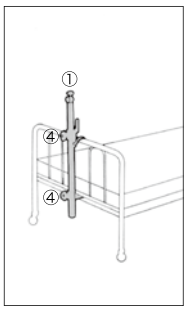


11-0619-001-00
23cmプーリー付スイベル
クランプバー

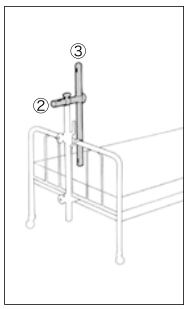


11-0619-002-00
46cmダブル
プーリーバー

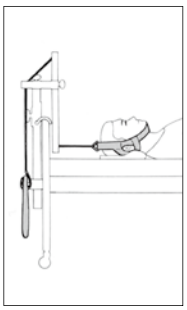
■組立て手順



1）①91㎝シングルクランプバー（11-0640-007-00）を上／下部パネルクランプ（11-0640-013/014-00）でベッドの足部に固定します。

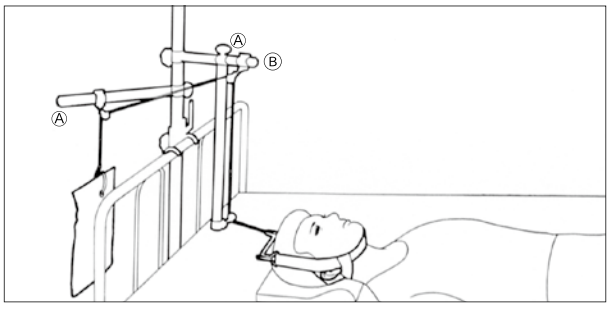


2）1）で固定した91cmシングとクランプバーのクランプ部に23㎝プーリー付スイベルクランプバー（11-0619-001-00）を取付け固定します。さらに牽引用ロープ（11-0967-001-00）を取り付けた③46cmダブルプーリーバー（11-0619-002-00）を垂直に固定します。



3）患者に⑥頸椎牽引用具を装着し⑦スプレッダーバー（11-0849-001）を取り付け、牽引用ロープを結び固定した③ダブルプーリーバーの下部プーリーに頸部牽引具が取り付けられていることを確認しプーリーにセットします。

■その他の応用例



基本フレームを用いる場合

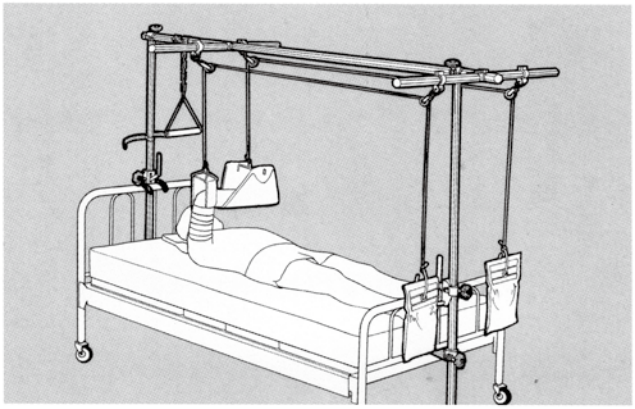
	カタログ番号	品名・規格	数量
Ⓐ	11-0640-005-00	46㎝シングルクランプバー	2
Ⓑ	11-0640-004-00	23㎝シングルクランプバー	1
	11-0849-001/003-00	スプレッダーバー	1
	11-1600-051-00	牽引用フック	1
	11-1602-000-05～50	ウェイト（0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい）	適宜

※168cmスイヘルクランプバー（11-0640-002-00）、上/下部パネルクランプ（11-0640-013-00）／（11-0640-014-00）
牽引用ロープ（11-0967-001-00）、プーリー（11-0640-008-00）、は基本フレームセットに含まれています。

応用例 2

オーバーヘッド上腕牽引（90-90）

Traction on Humerus-Overhead (90-90)



■適応

上腕、肩の骨折、脱臼

■留意点

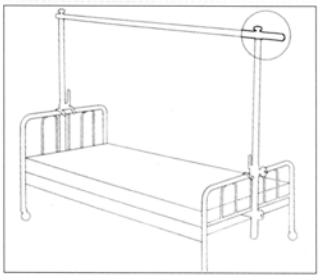
・この牽引は上腕のみで前腕は単に懸垂保持するだけです。
・特に患肢の手首、指の運動をさせてください。
・弾力包帯は中枢に行くに従って緩く巻いてください。
・皮膚の衰弱を防ぎ患者の苦痛をやわらげるために頻繁に患者の背中をチェックしてください。

■組合せ部品／アクセサリー

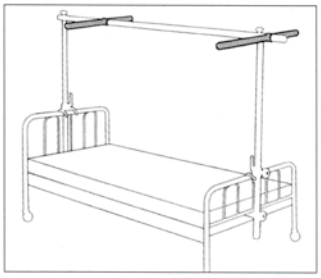
基本フレームセットをご用意ください。

カタログ番号	品名・規格	数量
11-0640-011-00	91cmセンタークランプバー	2
11-1600-051-00	牽引用フック	2
11-1602-000-05～50	ウェイト(0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい)	適宜

■組立て手順



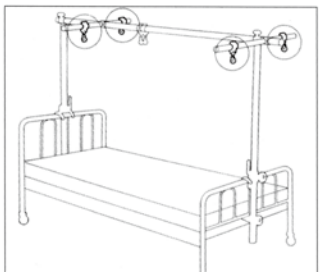
1）まずは基本フレームセットを組み立てます。基本フレームセットを組立てる時ベッド中央部の 244 cmプレインバー（11-0640-001-00）を足部方向にできるだけずらして取付けます。



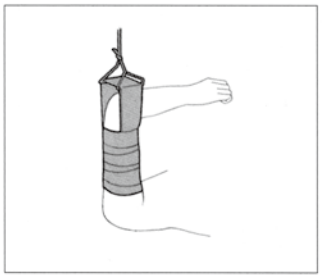
2）つぎに2本の91cmセンタークランプバー(11-0640-011-00)を取付けます。1本は患者の腕の上方に、もう1本をベッドの外側にとりつけます。



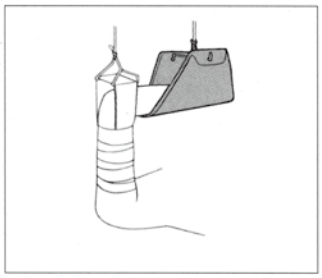
11-0640-011-00
91cmセンタークランプバー



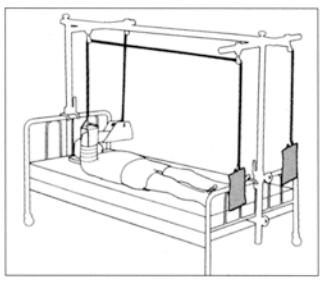
3）プーリー（11-0640-008-00）を図のように4ヶ所にセットします。



4）患肢に皮膚牽引用のベルト等を装着します。
※皮膚牽引用のベルト等は弊社で取り扱いがありません。適切なものをご用意ください。



5）前腕は懸垂のためにスリング等を装着します。
※スリング等の取り扱いは弊社ではありません。適切なものを別途ご用意ください。

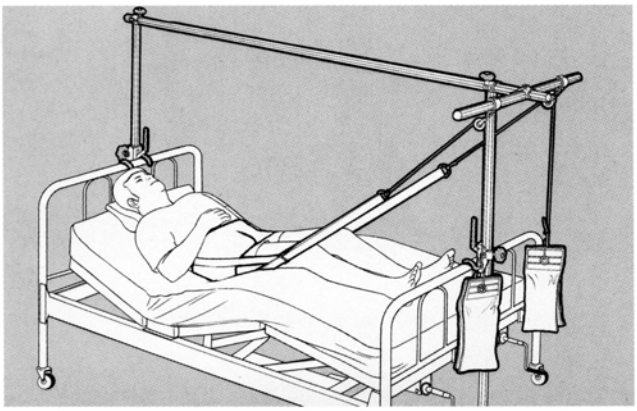


6）皮膚牽引用のベルトおよびスリングに牽引用ロープ(11-0967-001-00)を結び付け、プーリー(11-0640-008-00)に通しウェイト(11-1602-000-05～50)をセットします。

応用例 3

骨盤牽引（骨盤牽引ベルト）

Pelvic Traction with Pelvic Belt



■適応

神経根障害、坐骨神経痛、腰背部の筋肉痛、腰椎の軽度の骨折

■留意点

・カウンタートラクションは以下のいずれかの要領で行います。

1．ブロックでベッドの足部を持ち上げる
2．膝の部分をベッドのキューマラインで持ち上げる
3．膝の下に枕を入れる
4．ベッドをジャックナイフ・ポジションにする

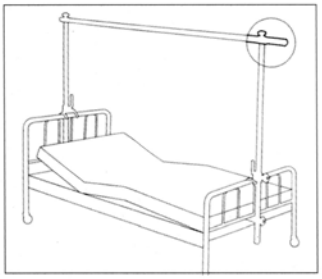
・等しい牽引力が加わるように腰部牽引ベルトテープ止式の長さを確認してください。
・皮膚の炎症が起きやすい腸骨稜をチェックしてください。
・腰部牽引ベルトテープ止式は常に清潔にしてください。

■組合せ部品／アクセサリー

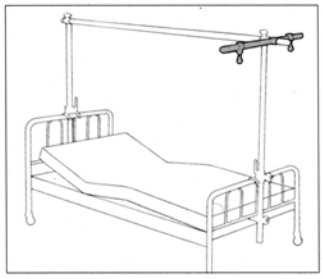
基本フレームセットをご用意ください。

カタログ番号	品名・規格	数量
11-0640-011-00	91cmセンタークランプバー	1
11-1600-051-00	牽引用フック	2
11-1602-000-05～50	ウェイト(0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい)	適宜

■組立て手順



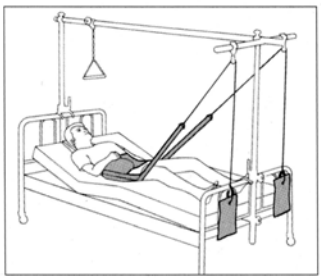
1）まずは基本フレームセットを組み立てます。基本フレーム組立ての際に244cmプレインバー（11-0640-001-00）をできるだけ足部方向にずらして取り付けます。ベッドは、図のようにジャックナイフ・ポジションにします。



2）91cmセンタークランプバー（11-0640-011-00）ベッドの外側に取付け、図のように2ヶ所にプーリー（11-0640-008-00）を装着します。

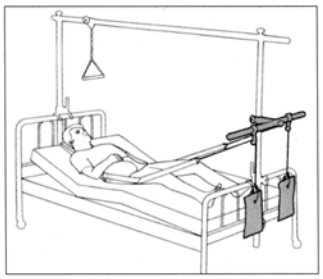


11-0640-011-00
91cmセンタークランプバー

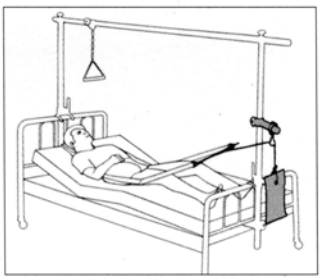


3）患者に腰部牽引ベルト等を装着し、それぞれ牽引ロープ(11-0967-001-00)、プーリー(11-0640-008-00)、ウェイト(11-1602-000-05～50)を用いて牽引します。

※腰部牽引用ベルトの取り扱いは弊社ではありません。適切なものをご用意ください。



A. 牽引角度を低く設定する場合は、図のように23cmシングルクランプバー（11-0640-004-00）を固定した後に91cmセンタークランプバー（11-0640-011-00）を固定します。

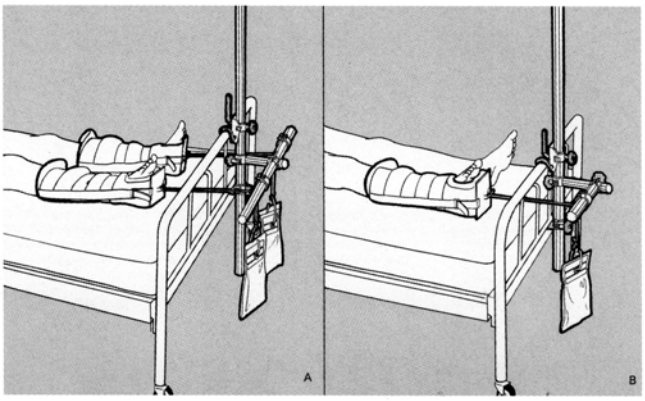


B. スプレッダーバーを使用する場合は、図のように23cmシングルクランプバーにプーリーを装着して、垂直バーの任意の位置にベットの外側に向けて取付けます。

応用例 4

バックス牽引（両側／片側）

Buck's Leg Traction



■適応

神経根障害、坐骨神経痛、腰背部の筋肉痛、腰椎の軽度の骨折、股関節骨折や大腿骨骨折の一時的固定、退行性関節症及び膝損傷

■留意点

・カウンタートラクションは膝の部分をギャッチで持ち上げて行なってください。

・腓骨神経に圧迫が加わらないように注意してください。

■組合せ部品／両肢同時牽引の場合

基本フレームセットをご用意ください。

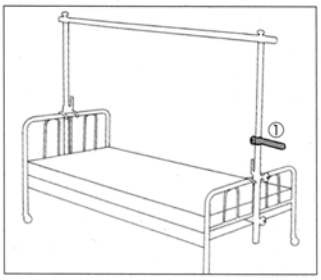
カタログ番号	品名・規格	数量
11-0640-011-00	91cmセンタークランプバー	1
11-0640-004-00	23cmシングルクランプバー	1
11-1600-051-00	牽引用フック	2
11-1602-000-05～50	ウェイト(0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい)	適宜各2

■組合せ部品／片肢牽引の場合

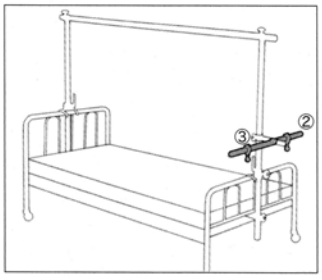
基本フレームセットをご用意ください。

カタログ番号	品名・規格	数量
11-0640-004-00	23cmシングルクランプバー	2
11-1600-051-00	牽引用フック	1
11-1602-000-05～50	ウェイト(0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい)	適宜

■組立て手順／両肢同時牽引の場合



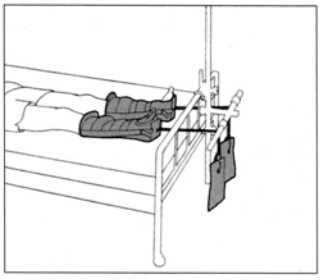
1）まずは基本フレームを組立てます。①23cmシングルクランプバー（11-0640-004-00）をベッド足側の①垂直に立っているバーの外側下部へ取付けます。



2）つぎに②91cmセンタークランプバー（11-0640-011-00）を取り付け、プーリー（11-0640-008-00）を③の位置に2個装着します。



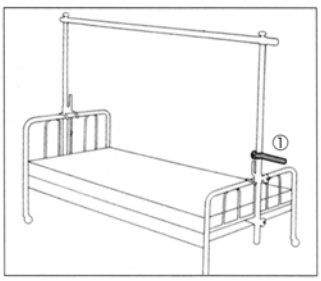
11-0640-011-00
②91cmセンタークランプバー



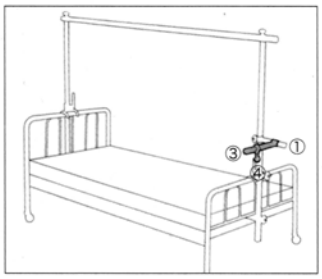
3）下腿用の皮膚牽引用スプリント等を装着し、牽引用ロープ（11-0967-007-00）に結び、ウェイト（11-1602-000-05～50）をセットします。

※下腿用の皮膚牽引用スプリント等の取り扱いは弊社ではありません。適切なものをご準備ください。

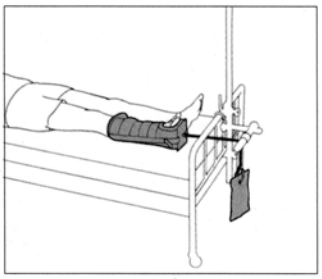
■組立て手順／片肢牽引の場合



1）まず基本フレームを組立てます。①23cmシングルクランプバー（11-0640-004-00）をベッドの足側の垂直に立っているバーの外側下部へ取付けます。



2）つぎに①23cmシングルクランプバーを②に対して直角に取付け、③プーリー（11-0640-008-00）を④の位置に装着します。



3）下腿用の皮膚牽引用スプリント等を装着し、牽引用ロープ（11-0967-007-00）に結び、ウェイト（11-1602-000-05～50）をセットします。

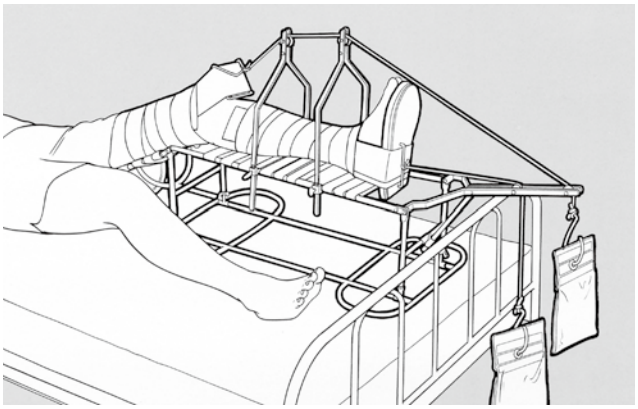
※下腿用の皮膚牽引用スプリント等の取り扱いは弊社ではありません。適切なものをご準備ください。

応用例 5

ベーラーブラウン牽引

Böhler-Braun Splint

単独使用の場合



■適応

膝関節までの脛骨粉砕骨折、脛骨及び大腿骨の不安定性骨折、軟部組織損傷を有する脛骨開放骨折

■特徴

・直達又は皮膚牽引に応用可能
・患部の点検、看護処置が容易
・担送が容易

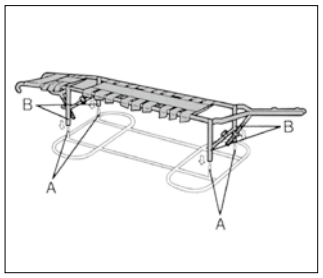
■留意点

・膝窩筋、アキレス腱、かかとを圧迫しないようにパットなどを用いてください。
・弾力包帯は中枢に行くに従って緩く巻いてください。
・腓骨神経麻痺を防止するため、定期的に血管・神経をチェックしてください。

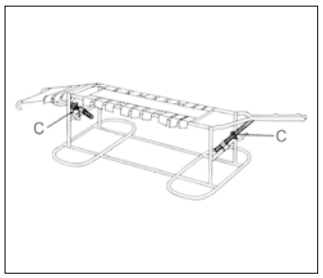
■組合せ部品／アクセサリー

カタログ番号	品名・規格	数量
11-0112-002-00	ベーラーブラウン架台	1
11-1600-051-00	牽引用フック	2
11-0967-001-00	牽引用ロープ	1
11-1602-000-05～50	ウェイト(0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい)	適ぎ

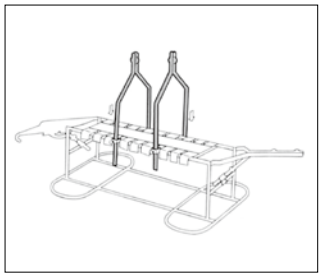
■組立て手順



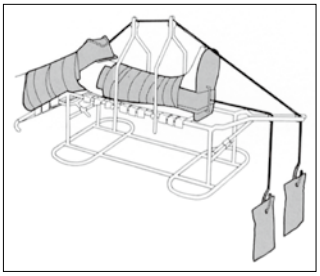
1）ベースフレーム（A）の4本の支持棒を垂直に立て、それに架台のパイプ（B）を装着します。この時支持棒の角度を調整しつつ4本の架台のパイプを同時に挿入します。



2）さらに大腿保持部及び先端プーリー部分の固定用支持棒（C）も同時にセットします。

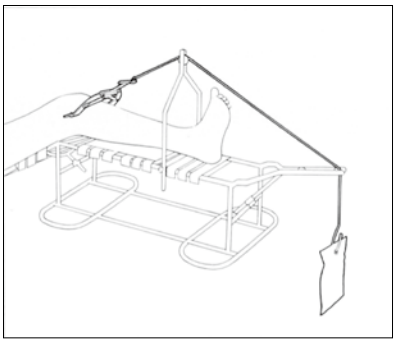


3）つぎに上方プーリーフレームを架台上の任意の位置・高さに取付け固定します。



4）皮膚牽引の場合、患肢に皮膚牽引用スプリント等を装着します。その後架台のプーリーを応用し、牽引用ロープ(11-0967-001-00)、ウェイト(11-1602-000-05～50)で牽引します。

※下腿用の皮膚牽引用スプリント等の取り扱いは弊社ではありません。適切なものをご準備ください。



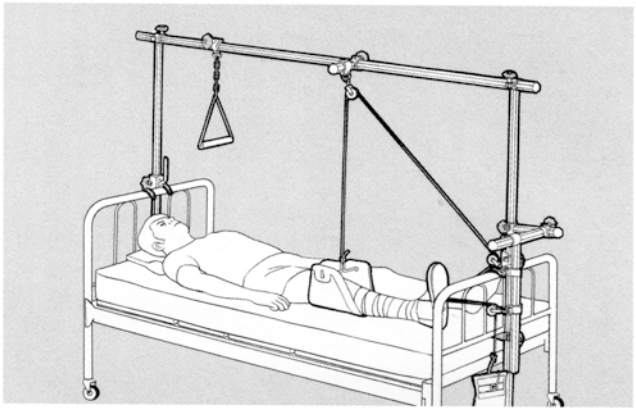
直達牽引は状況に応じてスタイマンピンまたはキルシュナーワイヤーを用い、架台のプーリーを応用して牽引します。

※直達牽引用の固定具等の取り扱いは弊社ではありません。適切なものをご準備ください。

応用例 6

ラッセル牽引

Russell's Traction



■適応

膝の損傷、大腿骨骨幹又は股関節骨折

■留意点

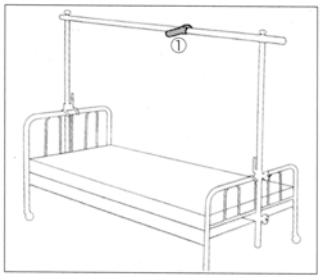
・ベッドの足部を持ち上げたり膝の部分をギャッチで上げてカウンタートラクションをしてください。
・プーリーの位置から生じるベクトルによりウェイトの2倍の引く力が加わります。
・ポリエステルスリングが軟部組織に食い込んでいないか確認してください。
・牽引装置の時にふくらはぎの下に枕を入れたら動かさないでください。

■組合せ部品／アクセサリー

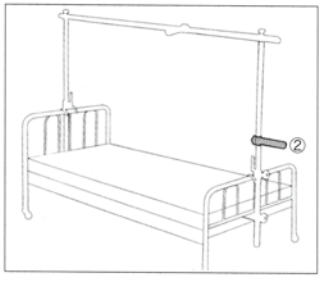
基本フレームセットをご用意ください。

カタログ番号	品名・規格	数量
11-0640-004-00	23cmシングルクランプバー	2
11-1083-003-00	13cmシングルクランプバー	1
11-0640-005-00	46cmシングルクランプバー	1
11-0849-001/004-00	スプレッダーバー	1
11-1600-051-00	牽引用フック	1
11-1602-000-05～50	ウェイト(0.5、1.0、2.0、5.0kgから選択下さい)	

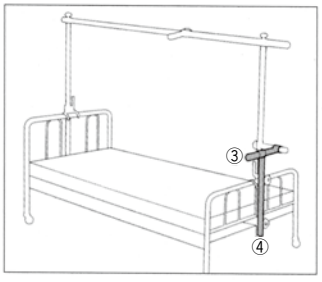
■組立て手順



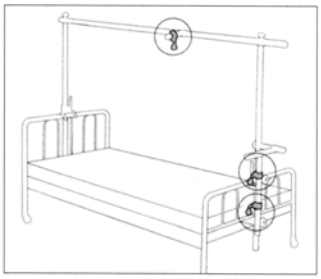
1）まず基本フレームを組立てます。患肢の膝の上位置に①23cmシングルクランプバー（11-0640-004-00）を取付けます。



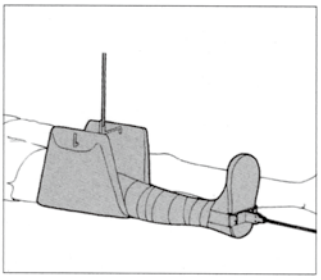
2）ついで基本フレームのベッド足側の垂直なバーに②13cmシングルクランプバー（11-1083-003-00）をベッドの外側の方向に取付けます。



3）2)で固定した13cmシングル・クランプバーの患肢側に③23cmシングルクランプバー（11-0640-004-00）を取付け、さらにそのバーに対して垂直に④46cmシングルクランプバー（11-0640-005-00）を固定します。

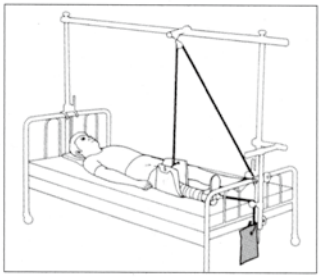


4）図のように3ヶ所にプーリー（11-0640-008-00）をセットします。



5）下腿用の皮膚牽引用スプリント等を装着し、牽引後図のように、スリング等をひざ下に通し、スリング等を上方向に牽引できるように牽引用ロープを取り付けます。

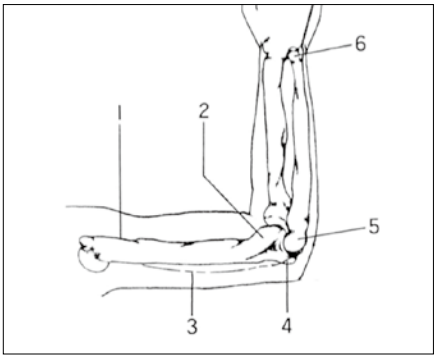
※下腿用の皮膚牽引用スプリント、スリング等の取り扱いは弊社ではありません。適切なものをご用意ください。



6）牽引用ロープを図のようにプーリーに通し、ウェイト（11-1602-000-05～50）を装着します。

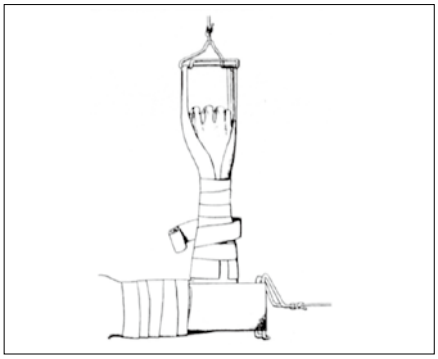
牽引包帯の応用と留意点

■ 上肢の皮膚牽引



上腕に牽引包帯を装着する際次の部位に過度な圧迫が加わらないように留意して行ないます。

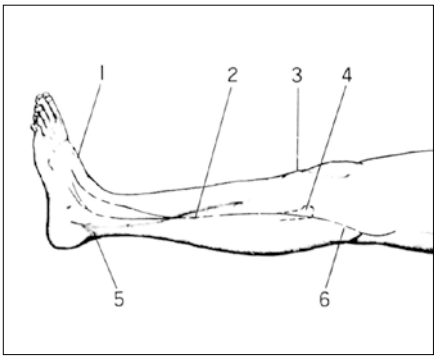
1．三角筋粗面　　4．内側上顆
2．外側上顆　　5．肘頭
3．尺骨神経　　6．茎状突起



牽引包帯は、骨折部位の組織に伸縮力を加えるために用いられるので骨折部位より中枢側に装着しません。

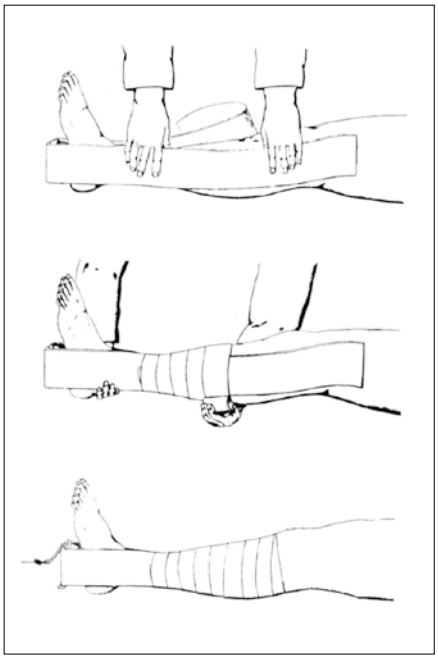
図はサイドアーム牽引の時の装着方法を示しています　弾力包帯は末梢部から装着し約2～3㎝の間隔に巻きます。

■ 下肢の皮膚牽引



下肢に牽引包帯を装着する際次の部位に過度な圧迫が加わらないように留意します。

1．背側隆起　　4．腓骨頭
2．浅腓骨神経　　5．アキレス腱
3．脛骨粗面　　6．腓骨神経



下肢の皮膚牽引も上腕の場合と同様に骨折部位の組織に伸張力を加えるのを目的としているので、骨折部位より中枢側に牽引包帯を装着しません。図はその装着手順を示しています。この際、弾力包帯はアキレス腱を避けて巻き始めます。

MEMO

MEMO

製造販売業者

株式会社 的場電機製作所

〒 350-1101 埼玉県川越市大字的場 2627 番地 5
Tel. 049-231-2255　Fax. 049-231-6789

医療機器製造販売届出番号 11B2X00062000006：ベーラーブラウン架台
医療機器製造販売届出番号 11B2X00062000005：ジムコード

販売代理店

ZIMMER BIOMET

ジンマー バイオメット

本社 〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目11番1号 住友不動産芝公園タワー15階
Tel. 03-6402-6600（代表） Fax. 03-6402-6620
https://www.zimmerbiomet.com/ja

● カスタマーサービス（商品のご注文）…… Tel. 03-6700-1071
Fax. 0463-30-4821

● 製品のお問合せ …… Tel. 03-6402-6604

営業拠点：札幌、仙台、高崎、千葉、東京、吉祥寺、横浜、金沢、松本、名古屋、大阪、岡山、広島、福岡